

WEBを利用した語学教材の提示

齋 藤 陽 一

はじめに

報告者は、「大学教育研究年報」第3号に、「外国語学習に必要なコンピューター教材とは?」と題して、コンピューターを利用した語学教育の可能性について書いた。今回は、平成14年度教養教育実施委員会経費により、機材とソフトを購入することができたので、それをさらに発展させた形で、WEB用の教材を作成し、その可能性を探った。対象者は、第1期に「言語文化基礎」を履修し、第2期の半年でロシア語の初級文法を学ぶ理化学部、工学部の学生である。言語文化基礎の講義において、ロシア語のアルファベットや簡単な挨拶の表現は習っており、その知識を生かした上でいかに短期間にロシア語文法の基礎を身につけることができるか、その補助教材にコンピューターを利用したのである。実際には、間に夏期休業があるために、アルファベットも怪しいという学生からの声をアンケートにより得てはいたのだが、

当初、意図したことは次の3点である。

- a 単語の自習用のソフトに音声を入れる。
- b 文法事項の説明をpdfファイル化して、文法事項を視覚的に理解しやすくする。
- c アニメーションなどを使って、ロシア語の文字の筆記体を習得しやすくする。その他、WEBファイルの視覚効果を高める。

a については、現在、使われている教科書では、カセットテープが別売されており、授業のためにそれを利用することが可能である。普通の教室では出席者全員が同じ単語の発音練習をすることになる。さらに、LL教室を利用した場合には、それを録音し、学生が各自単語の発音練習をすることができる。

しかしながら、どちらの場合でも、ある単語の発音をアランダムに練習することはできない。すでに分かっている単語も聴いてから、そのあとの単語に進まなくてはならない。そこで単語の一つ一つの音を音声ファイル(WAVEファイル)に変換し、1回クリックするだけで、その単語の発音練習ができるようにしようと考えた。

b については、以前、日本ロシア文学会のワークショップの報告(1998年10月23日)で、一般的なhtmlファイルとJavaScriptにより、日本語のJISのコードにある全角のロシア文字を利用した教材の発表をしたのだが、この場合、利用者のコンピューター環境により、提示される情報の外見が左右される。ロシア語の場合、名詞、形容詞などの格変化が複雑で、そうした内容の提示には、どの教科書でも工夫がなされていて、コンピューター上で提示するにも、色や、文字幅などに留意することが求められる。そのためには、pdfファイルでの配布が望まし

いと考えたのである。

c は、半年間で終了するクラスであるので、いくつかのことを切り捨て、また自習に頼らざるを得ない面がある。そのため、文字の学習は、教科書の文字を読むための活字体に限られ、ロシア人が実生活で利用している筆記体の習得は不可能である。そこで、将来さらにロシア語を続ける学生のために、筆記体の習得を可能にするファイルを作成した。その他、視覚効果を利用して、モチベーションを高めるためのファイルを作成した。

本報告では、冗長な報告になることを避けるため、aの課題のみ取り上げる。そして、b、cについては、私のWEBサイトのページ(<http://comnet.human.niigata-u.ac.jp/2003/>)を実際にご覧頂きたいと思う。尚、b、cの課題のために、経費でAdobe社のDesign Collectionを購入した。

概 要

音声ファイルの作成には、ローランド社のオーディオキャプチャー用の機器、UA-20(図1)を購入して、利用した。図の右下の部分オーディオ入力用の端子で、ラジカセのヘッドフォン端子から、ここへケーブルをつなぎ、USBケーブル(図の左上の部分)でコンピューターのハードディスクに音声を取り込む。実際には、授業中にカセットテープからMDに録音したものを使っていたため、このMDから録音したが、普通のカセットでも高音質で録音することができる。

録音する際に、単語一つ一つ、カセットテープをとめて、ハードディスクへの録音をするということも可能だが、煩瑣であることは否めない。そこで、今回は、10課まである教科書の1課ずつの音声ファイルを作成し、一つ



図 1

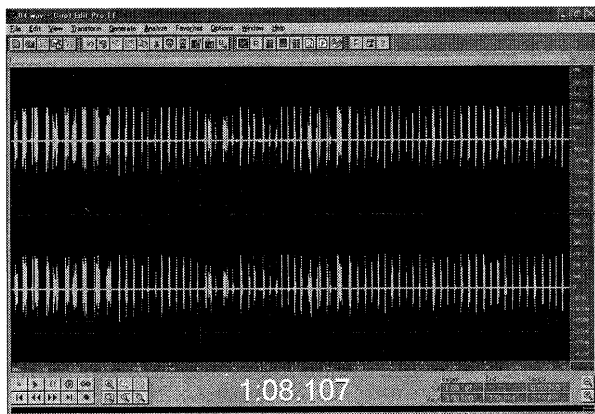


図 2

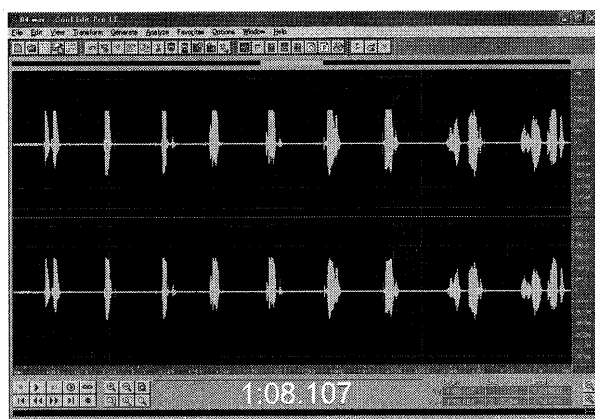


図 3

一つの単語の部分のコピー＆ペーストすることで、単語一つ分のファイルを作った。例えば、図 2 が、1 課分の音声ファイルの波形であるが、それを拡大（このソフトでは、表示する音声ファイルの長さを変更することができる）したのが、図 3 である。この一つの波が単語 1 個分に当たる。これをコピーして、新規のファイルにペーストして、音声ファイルを作成した。

授業時間は月曜日の 1 限と水曜日の 2 限、学生数は、当初の登録学生数は理学部、工学部の 27 名、12 月末現在で、26 名である。教室は、学期のはじめは、普通教室が割り当てられていたが、水曜日の 2 限は、第 3 LL 教室に変更し、パソコンを利用した LL 装置を用いた。

最初の計画では、昨年までこの教室のメインコンピュータにインストールされていた教材配布ソフトを利用し、各学生のブースに教材を配布するつもりであったが、このソフトがウィルス対策が施されていないという理由で、アンインストールされており、利用することができなかった。また、昨年は、学生が教室外の WEB サイトを利用するには分室アカウントを取得する必要があったが、今年度は、正式に確認はしていないが、その必要はないようであった。そのため、教材をすべて報告者の研究室のサーバーにおくことも考えたが、27 名の学生が

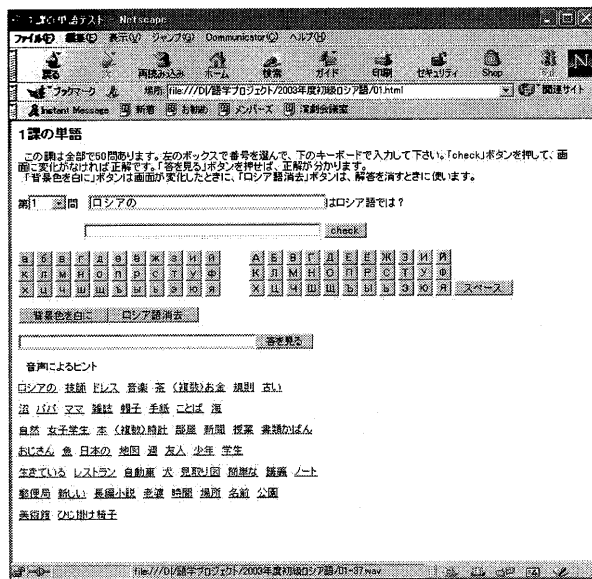


図 4

一度にアクセスした場合にそれに対応できるだけの性能を有していないので、結局、進度に合わせて、学習を終了した課までの単語練習ソフト（昨年も利用したもの）に、音声ファイルを付加したものを CD-RW にコピーし、それを授業開始時に学生に回し、各ブースのコンピューターへコピーしてもらった。

12 月の最後の授業の際に、各課の単語問題とその音声ファイル、動詞の変化の問題、名詞の格変化の説明、さらに昨年度の最終試験の問題を WEB ブラウザを利用して閲覧することができるものを CD-R に焼いて、配布した。

学生の評価と今後の課題

本報告の締め切り日（12 月 26 日）の直前の、最後の授業の日（24 日）に、上で述べた CD-R を学生に集中的に利用してもらい、それについて、さらにそれまでの授業の際に利用してもらった単語練習ソフトについて感想を書いてもらった。ここでは、まず、この単語練習ソフトの内容と、授業の際での利用方法について述べたあとで、学生の感想を紹介したい。

ソフトは、JavaScript を使って作っており、WEB ブラウザを用いてファイルを開くと、図 4 のように、日本語で単語が提示され、画面に表示されるキーボードの文字の部分をクリックすることで、ロシア語の単語が入力できる。不正解の場合は check ボタンを押した時に、画面が赤くなる仕掛けになっている。さらに、今年度は、上でも述べたように、ヒントとして下に音声ファイルへのリンクを用意し、日本語を見ただけで単語が思い浮かばない場合に、音声を聴き、それをヒントに綴りを考えるというシステムにした。また、教科書を見ながら、音声ファイルを聴いて、単語の発音練習もできるようにした。

授業時間には概ね、1 文法事項の説明 2 単語の説

明とその発音練習 3教科書の例文の発音練習 4練習問題の解答といったことを行っているが、その途中にコンピューターを利用した単語の練習の時間を取った。さらに、12月中に10課ある教科書の5課までを範囲とした中間テストを行い、3課、5課の単語から、和文露訳の問題を出すということを予告し、動機付けをはかった。このLL教室では、学生がやっていることを教員の席からモニターできるのだが、中間テストが、合格（文法事項5問、単語がほとんど与えられている簡単な和文露訳3問のうち、2問間違えると不合格）するまで何度でもやるというシステムになっているため、合格した学生は先の方の問題をやり、まだ合格していない学生は、指定された3課、5課の単語練習をするという傾向が見られた。

さて、次に学生の感想の紹介に移るが、たまたま、実施した日が、理学部向けの教職科目の集中講義の始まる日で、15名の学生からしか回答を得られなかった。

最初にプラスの評価の方からあげるが、こちらが意図した通り、音声をすぐ聴くことができるということへの評価は高かった（15名中12名）。なかには、「テープだと頭出しが面倒」というように書いてくれた者もいた。次に、間違えた時に、画面が赤くなるというシステムが意外に好評で、4名がこのことに言及していた。このシステムを採用しているのは、教室の後ろに立って全体を見てみると、誰が間違えたかがよく分かるからなのだが、「うしろの人に間違いがバレる」からためになると書いた学生もいた。

また、こうした単語の勉強のやり方自体を評価してくれた回答もあった。例えば、「自分のペースに合わせて音声を聞きながらできるというのはとても良いことだと思う」というように。

反対にマイナスの評価を受けたのは、まず、文字盤のロシア語の文字が小さいということ（15名中7名）、ロ

シア語の入力方式が複雑、あるいはインサートができないという点（15名中4名）であった。これらは、私自身のコンピューターの能力の問題であるが、何しろ、htmlファイルの基本的な書き方は分かっている、教育上の本業（人文学部、全学共通科目での演劇関係の授業、ロシア語）とはかけはなれており、なかなか、そちらに時間をさくことができなかったのである。次年度への課題としたいと思っている。

課題ということでは、学生達が具体的に指摘してくれたので、それもいくつか記しておきたい。

- ・つづりが合っていた時も背景の色が変化するようにしてほしいと思いました。
- ・音声流す時にメディアプレーヤーが立ち上がらなければ見た目的（みためてき）にもっといいと思った。
- ・「第2問」を押した時に第1問で打った単語が消えてくれるとうれしいです。
- ・（音声の）ファイル数が多くなるのでフォルダに入れて整理してもらいたい。
- ・単語の問題をランダムにできると良い。
- ・教科書の例文もすぐに聞けるようにデータ化して欲しい。著作権に触れるというなら、無理かもしれないが。

こうしたことは、この報告の執筆後も授業があるので、改善されているかもしれない。学生に配布したCD-Rの内容にさらに別の事項をプラスしたものを、報告者のWEBサイトで公開しているので、ご確認いただければ幸いであるが、ただし、音声ファイルについては、上で学生の一人が指摘しているように、著作権の問題もあるので、一部のみを公開している。授業の際には、テープを授業で利用するのと同じことであると考え、リンクしてあったものである。

感想を寄せてくれた、平成15年度初級ロシア語Ⅰの3の受講生の諸君に感謝の気持ちを記して、この報告を終えたいと思う。